

高校生レストラン

2月25日(木)、食品経済コース2年生が、宮津市国分の「天橋立ワイナリー」で海洋生1dayレストランを開催しました。本年度は、コロナ禍の中での開催となりましたが、新しい生活様式についての学びの場として考え、感染症対策に細心の注意を払い、実施することができました。今後も、本校会場を中心に月1回、高校生レストランを開催し、逆境に負けない生徒を育成していきたいと思っております。



寒さの中、毎日頑張っています。



貴重な販売実習の機会を大切にすることができました。

トラフグの飼育管理

2月8日(月)、次年度に栽培環境コースへ進む1年生が、2年生と合同で実習を行いました。生物管理の基本は掃除です。1、2年生が協力して施設の掃除を行いました。また、18日からは1年生も日直による飼育管理に参加しています。2年生から始まるトラフグの飼育管理に向けて、基本的な飼育管理技術を習得するために頑張っています。

サケガシラの骨格標本を作ってみた

3月は生物の産卵に向けた準備を行う季節です。今年もメダカや金魚を始め、稀少生物であるナガレホトケドジョウの繁殖に挑戦します。3月の下旬には海水温も上昇し、本校棧橋で観察や採集できる生物も徐々に増えるため、調査や飼育管理等が忙しくなってきますが、生き物が好きでたまらない部員たちには待望の季節となります。また、骨格標本も製作しており、骨格等から生物の体の不思議を感じ取っています。これらの展示に向けて準備を進めているところです。



マリンバイオ部が玄関前に展示しています。

海洋プラ問題を解決するのは君だ！

海洋科学科では、研究活動の一環として「海洋ごみ問題」を取り扱っています。3年海洋科学科 川崎 康平君は、校内の研究活動にとどまらず、学校外で貴重な経験をしたそうです。

2020年8月に募集のあったオンラインプログラム「海洋プラ問題を解決するのは君だ！～高校生×研究×社会問題解決プログラム～(運営：IHRP 実行委員会)」に応募しました。課題提出や書類選考もありましたが、3倍の難関を見事突破し、予選を



ペットボトル製のトロフィーです。

通過しました。半年間、グループで活発なオンラインミーティングが展開され、最終発表では優秀グループに選ばれました。さらに、2月24日(水)にパシフィコ横浜で開催されたサステナブル・ブランド国際会議2021横浜において、研究や議論した内容を発表しました。川崎君は、「全国各地の高校生と研究を進めたり、研究者と交流したりして、視野が広がりました。大学でも海洋ごみ問題の解決に近づけるよう、研究を進めたいと思います。」と感想を語りました。

「ヒトデ」がいります

宮津湾では、現在「黒いダイヤ」ことナマコ漁が行われています。海洋技術コースは、ナマコ漁で混獲されるヒトデを、堆肥として利用しています。混獲されるヒトデは利用方法がなく、処分にもコストが掛かるため、海の厄介者として扱われていましたが、京都府から製造と販売の許可をいただき、堆肥にすることで農作物の栄養源として活躍します。漁師さんからヒトデを譲り受け、高校生がヒトデをエコリサイクル！堆肥化の際に行う「切り替えし作業」は重労働で文字どおり人手(ヒトデ)がいりますが、流した汗は地域を救う！皆さんも是非海洋高校へ！



できた肥料は今後イベントで販売します。

○卒業生からのメッセージ

天橋立ワイナリー株式会社
上羽 結衣さん(橋立中学出身)
平成18年度卒

私は小さい頃から料理が好きで、海洋高校は魚を捌いてそれを加工品にしたりしていると聞いて凄く魅力を感じて入学を決めました。2年生からの食品経済コースでは魚を捌いて加工品を作ったり、時には加工した商品の販売実習もしたりしました。お菓子やジャム等も作りました。楽しい実習ばかりで海洋高校に入学して本当に良かったと思っています。高校を卒業して大阪の専門学校へ行き、その後は地元へ帰ってきました。自分が生まれ育った地元の野菜や地元の魚を使って料理をしたいと思ったからです。今の職場は地元の食材を使ったお店で、海洋高校のすり身も使わせていただいています。卒業しても海洋高校と御縁があり、とても嬉しいです。

これから高校に入学される皆さんには、是非海洋高校を選んでいただき、沢山の経験をして沢山のことを身に付けて楽しい高校生活にしてほしいです。



○在校生からのメッセージ

海洋科学科 3年 森田 瑠菜(白糸中学出身)

私は中学生の頃に、水族館のスタッフになりたいという夢とともに、京都府立海洋高等学校への入学を決めました。その頃は、海洋高校の水産技術の高さや施設の整い具合に魅力を感じ、海洋高校を卒業すれば、水族館のスタッフになるのだろうと思っていました。しかし、卒業間近の今、私は、環境保護の仕事に就きたいと考えています。この心境の変化は、海洋高校に入ってきたための変化だと感じています。

2、3年次、私は「海洋科学科」という大学進学・公務員就職のために、専門高校でも普通科目授業の多い学科に所属していました。この学科では、シンポジウム(講演会)に参加する機会が多くあったり、3年生の研究活動での学びが自分の希望に合ったりと、他の考えに触れる機会がたくさんありました。そういった機会があったために、私の考えは入学当初より広がり、他の仕事への選択肢が増えたのだと思います。

みなさんも海洋高校に入学し、他の考えに触れてみてはいかがでしょうか。



今月の1枚～文化委員から～



今月は2年生がシャッターを切りました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くのイベントが中止になりましたが、その中で新しい取組を行うことで、企画力、想像力を身に付けることができました。多くの方々の御支援をありがとうございました。

「川と桜」
福岡 凜貴
(大阪市立喜連
中学出身)



「海」
由井 雅治
(泉大津市立
東陽中学出身)

実習レポートから

- 2年「総合実習」 ■ 2月8日(月)
- 授業内容 1年生との合同実習
- 海洋資源科 栽培環境コース2年
- 黒岡 希来(橋立中学出身)

トラフグの記録では、水温の記入間違いが多かったです。日直の作業は2人体制で行っているため、正しい記録なのかを確かめ合うことや、言われたことをメモして次回に繋げていくことが大切だと思いました。1年生と一緒に作業をして、私たちが最高学年になるということを自覚すべきと感じました。だから、1年生に教え、指示を出すこと、自分から積極的に声をかけていくことが大切だと学びました。



校長室より

卒業式を終え、最後のホームルーム。今年度は式場の体育館で、学年全体で行いました。例年とは異なる形態ですが、密を避け保護者にも参加してもらうことができました。一人一人が卒業証書を手にした後、体育館の壁面に映写されたのは、クラスごとに作成したスライドショー。思い出のシーンとともに生徒たちが掲げるメッセージカードには、飾らない感謝の言葉がちりばめられていました。あるクラスのバックミュージックは、どうやら生徒の弾き語り。アコースティック・ギターの音色と甘いボイスが妙にマッチしていました。終了後も続く、記念撮影の輪。目頭が熱くなりました。